

令和3年(2021年)6月4日

今年も暑い夏?? 早めの暑熱対策で事故防止!

「異常気象」続きの昨今、今のところ3か月予報では猛暑は予想されていませんが、それでも暑い季節がやってきます。鶏は27℃を超えると暑熱ストレスにより産卵・卵質の低下、発育停滞を招き、33℃を超えると熱射病で死亡する率が増加します。

暑熱対策を再確認、事故防止につとめましょう。



鶏舎への対策

- ① 換気扇を掃除し通風量を確保
- ② 畜舎の屋根へ消石灰や断熱塗料等を塗布、散水を行い畜舎内の温度を低下させる
- ③ すだれ、グリーンカーテンで直射日光を遮り、温度の上昇を抑制

鶏への対策

- ① 飼育密度を下げて、風通しを良くする
- ② 細霧やファン、ダクト送風などを活用、体感温度を低下させる
- ③ 給水器の清掃をこまめに行い、新鮮・清潔な水を給与する



飼養管理での対応

- ① 暑い時間または暑くなる直前の給餌は避け、早朝や夕方・夜間に給餌する
- ② ビタミンA・C・E、重曹等の添加により栄養不足(消耗)を補う

この冬過去最悪の発生となった高病原性鳥インフルエンザの特徴

○発生の状況 (R2.11~R3.3月末)

- ・鶏で18県・52事例(75農場、1施設)で発生、過去最悪987万羽を殺処分
- ・野鳥では18道県58事例で感染を確認

○発生の特徴

- ・従来の国内発生と比較し発生期間が長期化、発生地域が広域化
- ・バイオセキュリティが比較的高い“メガ級”農場の発生や、短期間に限定された地域で複数事例が続発 ※感染野鳥が例年以上に多く環境中のウイルス濃度が高まった可能性あり
- ・ウイルスは全て「H5N8亜型」だったが遺伝的には2系統が同時に流行

※2019年度終盤にヨーロッパで検出された「欧州19-20冬系統」と近縁なウイルスが全国的に流行、一方、関東や四国、九州地方で年末頃から検出された2020年度の秋口にヨーロッパで検出された「欧州20秋系統」と近縁なウイルスが流行

○国の疫学調査チーム現地調査による指摘事項

- ・多くの事例で飼養衛生管理基準の不備(手指消毒や衣類交換の不徹底など)を確認
- ・ネズミなどの小動物が侵入可能なすき間や、農場周辺では水鳥類を確認
- ・農場入場時の消毒や長靴の履き替え、鶏舎ごとの消毒、衣類・長靴の交換不備により、ヒトを介して農場内にウイルスが侵入した可能性を指摘
- ・防疫作業では、埋却地を確保できている事例と、できていない事例に二分され、防疫作業の進捗よくに差が発生

飼養衛生管理基準の遵守を徹底し、次のシーズンも蔓延・流行に十分な警戒を!